# 鹿児島県上野原遺跡出土品

【所　在　地】霧島市国分上野原縄文の森 1-1　県立埋蔵文化財センター
【種　　別】国指定有形文化財（考古資料）
【指定年月日】平成 10 年６月 30 日

耳飾り　　壺形土器

上野原遺跡は国分市街地の南東の標高約 250m のシラス台地上に立地している。これまでに発掘調査された遺跡は，10 ヶ所の地点に分けられる。２・３地点では縄文時代早期前半（約 9,500 年前）の住居跡群が発見され，国の史跡に指定されている。10 地点から出土した縄文時代早期後半（約 7,500 年前）の一括資料 767 点が国の重要文化財に指定されている。

資料は壺形を含む土器類，石皿類の石器とともに土偶（粘土で作った女性像）や耳飾り（土製，石製）など多岐にわたっている。土偶は九州内では最古の出土例として注目される。

全国的にはこの時期の人々は, 深鉢形土器のみの一種類を使用していたと考えられるが, 上野原遺跡では用途に応じて多くの種類の土器（深鉢形土器，壺形土器，鉢形土器等）や石器を使い分けていたことがわかった。また，日々の食料を得るだけの生活と考えられていたが, 土偶や土坑内に納められていた２つの壺形土器は祭りに使用されていたと思われ, 耳飾りなどの装身具とあわせ, 全国的にも高い精神文化を持っていたことがうかがわれる。

このような多種・多様な出土品は，南九州の縄文文化が全国にさきがけて花開いたことを証明するものであり，当時の縄文人の暮らしぶりや考え方を知る一級の資料である。